

「ファニーたい焼きトム30 激渋

抹茶餡」

第一幕：新作発表！

（東京都内の片隅にある『たい焼きトム』。派手な看板とアメリカンな装飾が施された店内には、ユニークなたい焼きがずらりと並ぶ）

トム「オッケー、みんな準備はいいか！？今日の新作は……これだッ！！」

（トムが掲げたのは、普通のたい焼きとは違い、鮮やかな緑色を帯びたたい焼き！）

魚住「え、これ……？」

トム「その名も、『激渋抹茶餡たい焼き』！お茶の本場・京都の最高級抹茶をふんだんに使い、とにかく、渋さを追求したたい焼きさ！」

魚住「いや、ちょっと待ってください……
渋すぎるたい焼きって誰が求めてるんで
すか!？」

トム「ジャパニーズ魂! 日本人は渋いも
のが好きなんだろう? ならば、俺が究極
の渋みをたい焼きで表現するのが筋って
もんさ!」

(魚住は困惑しながらも試食する)

魚住「……!?!? なにこれ、渋い! 渋すぎ
る! 口の中にお茶の苦味が爆発して……
あれ? でも、後からくる甘さが絶
妙……!」

トム「そうだろう!? 渋みと甘みのコン
トラスト、それこそが『激渋抹茶館』の
真髓だ!」

(しかし、お客の反応は……?)

第二幕：衝撃の味、飯テロ炸裂!

(店の外には、試食を求めて集まる客たちが並び始める)

お客 1 「新作ってどんな味？」

お客 2 「抹茶ってことは、和風スイーツって感じかな？」

(試食が始まると、店内は騒然となる！)

お客 3 「……ッッッ！！！？？ し、渋い
いいいいい！！！」

お客 4 「うわあああ、舌がしびれるうう！
でも……でも、なんかクセになる！！！」

(ある者は悶絶し、ある者は恍惚とした表情で目を閉じる)

(老紳士が一口食べると、背筋を伸ばし、しみじみと語る)

老紳士 「この渋み……これは、まるで禅の境地……！」

女子高生1「ちょっとこれ、すごくない！？ インスタ映えするし！」

女子高生2「＃激渋 ＃たい焼き ＃修行の味
ってタグつけよ！」

(次第に評判はSNSで拡散され、行列は
さらに長くなっていく)

第三幕：ライバル現る！

(そんな中、店の前に不気味な影が現れる)

??? 「……………ほう、貴様が、激渋抹茶を
掲げるとはな……………」

(現れたのは、黒い着物をまとった男。その
手には、抹茶の茶筌が握られている)

トム「おおっ、なんだかすごいヤツが来たな！」

魚住「え、誰！？ ていうか、その雰囲気
なに！？」

謎の男「名乗るほどの者ではない……た
だ、抹茶を極めし者……」

（男は懐から一振りの茶葉を取り出し、香
りを嗅ぐ）

謎の男「貴様の抹茶、確かに渋い……だ
が、本当の渋みとは、そんなものではな
い！」

（観客がどよめく）

観客1「ま、まさか……伝説の抹茶職
人！？」

観客2「黄泉の深緑を操る男……抹茶の
亡霊とも呼ばれる存在……」

（トムはにやりと笑い、拳を握る）

トム「面白いじゃねえか！ならば勝負だ、どっちがより渋いたい焼きを作れるか……！！」

第四幕：たい焼き対決開幕！

（特設会場が作られ、勝負は公式戦へと発展する）

（審査員は抹茶の大家、スイーツ評論家、そして外国人観光客という異色の組み合わせ！）

司会者「ルールはシンプル！より渋く、それでいて旨いたい焼きを作れ！！」

（トムは豪快に茶葉を振り、強火で炙る）

トム「焙煎抹茶を使った濃厚な渋み……そこに隠し味の黒蜜を加えて、甘さのカウンターパンチを仕込む！」

(対する謎の男は、茶室のごとく静かにたい焼きを焼く)

謎の男「静寂の抹茶……五年間熟成させた秘蔵の茶葉を使い、極限まで繊細な渋みを引き出す……」

(観客たちは息をのむ)

(そして、ついに試食の時……！)

第五幕：伝説のたい焼き決戦！

(決戦の舞台は特設ステージ。屋台風のセツトが生まれ、観客が熱狂的に応援している。実況席には有名なフードジャーナリストと茶道の大家が並ぶ)

実況「さあ、ついにこの時がやってきました！日本一、いや、世界一渋いたい焼きを決める激闘！果たして勝つのは、『たい焼きトム』の店主トムか？それとも、『黄泉の深緑』を操る謎の男か！」

（審査員席にはスイーツ評論家、抹茶職人、そしてまさかの外国人観光客）

審査員1（スイーツ評論家）「私は和菓子を食べ尽くしてきたが、ここまで渋みが極まった戦いは見たことがない！」

審査員2（抹茶職人）「茶葉の質、点て方、餡とのバランス……すべてが試される！」

審査員3（外国人観光客）「オウ、ジャパニーズ・タイヤキ・バトル……ワクワクシマスネ！」

（トムは力強く腕を組み、謎の男は静かに茶葉を撫でる）

トム「フアニーなたい焼き魂、見せてやるぜ！」

謎の男「渋みとは、人生……極めた者だけが味わえる境地……」

(司会者が開戦のゴングを鳴らす！)

(両者、目にも止まらぬ速さで抹茶を点てる！トムは大胆に、謎の男は流れるように優雅に)

(トムのたい焼き：大胆な渋みと甘みのコントラスト！かぶりついた瞬間、口の中に激しい抹茶の波が押し寄せる！)

観客 1 「うわああ！渋い！でも……この後の甘さが絶妙すぎる！」

(謎の男のたい焼き：一見シンプルだが、食べた瞬間に舌の奥で広がる奥深い渋み！まるで茶室に迷い込んだかのような余韻！)

観客 2 「静かなる衝撃……これが本物の抹茶の力……」

(審査員たちは一口ずつ食べ、目を閉じ、しばし沈黙)

（店へ帰るトムと魚住。その後ろには、激
渋抹茶餡たい焼きを求め、行列が続いて
いた――）

終わり

・ **第一幕：新作発表！（約15分）**

- ・ トムの新作たい焼き発表
- ・ 魚住のリアクション
- ・ 味の説明とコンセプト紹介
- ・ 客の反応への期待感を煽る

・ **第二幕：衝撃の味、飯テロ炸裂！（約
20分）**

- ・ 試食開始、大袈裟なリアクシ
ョ
ン
- ・ お客様の多様な感想（悶絶・感動・イ
ンフルエンサーの拡散）
- ・ 行列が伸び、評判が広がる

• **第三幕：ライバル現る！（約15分）**

- 伝説の抹茶職人登場
- キャラの魅力を探掘り（背景・渋みへのこだわり）
- 対決宣言、観客の盛り上がり

• **第四幕：たい焼き対決開幕！（約20分）**

- 対決のルール説明
- たい焼き作りの過程（技術・食材・心理戦）
- 両者の戦略の違いを明確にする
- 仕上げ、試食前の緊張感

• **第五幕：決着とクライマックス（約20分以上）**

- 審査員の試食リアクションを細かく描写
- 勝敗が決まる

- それぞれのキャラの成長や結末
- 最後のオチ、エピソード